

石川 康宏 (いしかわやすひろ)

1957年、北海道札幌市生まれ。立命館大学2部経済学部、京都大学大学院経済学研究科卒業。1995年、神戸女学院大学赴任。2004年より教授。近著に『戦後70年の日本資本主義』(共著)、『社会の仕組みのかじり方』、『21歳が見たフクシマ、ヒロシマ』(ゼミ著)、『軍事立国への野望』(共著)、『若者よ、マルクスを読もうII』(共著)、『おこぼれ経済』という神話』、『女子大生原発被災地ふくしまを行く』(ゼミ編著)、『橋下「維新の会」がやりたいこと』など多数。兵庫県西宮市在住。



新春座談会



人権・社会権と医療を考える

2016年7月の参議院選挙で「市民連合は、安保法制の廃止と立憲主義の回復とともに」すべての国民の個人の尊厳を無条件で尊重し、保障すること」も訴えました。

医師は、患者の尊厳や人権と向き合うことを必要とされている職業でもあります。

そこで今回は、経済学者で社会活動家である石川康宏氏を招き、「個人の尊厳、人権を保障せよ」という声、市民運動にまで広がっている現状とその背景についてお話を伺いました。



松村 康夫 広報部員

一人ひとりの国民の自由を保障する国家をつくらうというのが、当時は「独立宣言」であつたり、フランスの『人権宣言』という形では生れながらに平等じゃなかったが、歴史的にはそれがないのか」という思想が出た。そこから王様に拘束されないとか、思想は自由だとか、宗教も自由だとか、転居が自由だとかつていう自由権が生まれてきま

た。その近代憲法を実現するために国家権力が後からつくられるから、その国家

権力は民主党であろうと共和党であろうと、この憲法を実現するためにいまさら

は頑張りという話になりま

憲法を生かす政治を追求しない政府

「石川」 ヨーロッパ社会では、自由権も社会権も

に、基本的な人権は人類の長い闘いの成果だと書いていますけれど、自ら闘って獲得したものでないの、そこが理解できない。自由権のために闘った人が一握り、社会権のために闘った人はほぼ皆無という状況で、日本国憲法の条文だけが与えられても、意味が分からないわけでは

人間らしく生きることと保障する社会権は19世紀に生まれた

「岩田」 安保法を含めて、市民の運動のなかで、人権もみんな考えるべき課題だ」という声が上がってきていますね。

「石川」 最初は、白人だ気もあつたでしょうし、過労死もたくさん報告をされました。

「石川」 ヨーロッパ社会では、自由権も社会権も

近代憲法の登場 国家に人権を守らせる

「石川」 そもそも人権自体が問題になるのは、ヨーロッパやアメリカなどで、それ以前の身分制社会が壊れていく過程のことです。

「石川」 最初は、白人だ気もあつたでしょうし、過労死もたくさん報告をされました。

「石川」 ヨーロッパ社会では、自由権も社会権も

新刊のご案内 病院経営と雇用管理 会員価格 1,200円

B5版160頁 / 発行：全国保険医団体連合会 申込 Fax 03(5339)3449 またはホームページから

